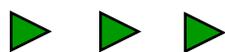


自立した主権者 をめざして



Vol.28 私たちが持つべき責任

KEYPOINT

- ・あなたにとって責任の民主化とはどんなことですか？

SUMMARY

私たちは失敗を他人のせいにしてできるだけ自分が責任を取ることから逃れたいと考えますが、例えば政党や政治家を選ぶことは、たとえ投票に行かなくても私たちの責務となります。何をしても変わらないから投票しないのに、責任だけはとらされることに不条理を感じませんか？それはどうしあら解消できるのでしょうか。

お知らせ

「がんばろう、日本！国民協議会」の機関紙 523号（12月1日発行）1面論文について、構成や流れや受け止め方等をコメントする場を YouTube チャンネルで配信しています。毎月配信しますのでニュースと併せてご視聴ください。



選んだのは私たち

社会調査研究センター（SSRC）が1月8日に行った「dサーベイ」（スマートフォンを対象とした新しいインターネット調査方式）による全国世論調査では、岸田内閣の支持率は25%と大変低い結果になりました。この新しい調査方式の精度や全体の属性の公平性などについての議論はさておき、この低い支持率しか得られない政権政党を選んだのは私たち国民です。就任時には6割近い支持率を与えておいて、1年ちょっとで支持率が大幅に下がる。見慣れた光景ではありますが、このような、世論が一貫しない現象は首相だけが悪いのでしょうか。

民主主義においては、私たちが議員を選んだり、首相を選んだりする時、その判断自体が、正しいか間違っているかは、当然議論の対象になりません。投票の結果、つまり声が大きければその声正しいということになります。しかし、選んだ人物に対して、数か月後には掌を返したように逆の評価をし始めることについて私たちはもっと考えるべきなのです。内閣にしても、議員にしても、就任や当選した時と数か月後で、本質が大

きく変わっているということはないのですから。

例えば「首相は無能だ」という声が大きくなると、辞任や解散という事態に至るのですが、その首相を選んだのは、私たちです。自分は直接関係ない、投票していないと言ったとしても、主権在民という以上、権利を持っている私たちは、選択の結果に責任を持つことになります。自分ではなかった、反対していた立場であっても、その人を選んだ責任が生じてしまうのです。主権在民と国民の権利を主張する以上は、それに伴う同等な責任を国民が持つということが、民主主義の前提なのです。

責任を「取った」後

また別に、日本人は取るべき責任を取らない国民だという趣旨の評論家等の発言をよく見かけます。日本人はプロセスを考慮せず、悪い結果が生じたらそれを特定の人と結びつけて処断してしまうことが多い。また、空気を読み、状況に合わせた決定をしようとする傾向があるという、意思決定の仕方を好みます。不適切発言で大臣が辞任することなどは典型的な例です。そして誰かを処分すると安心して全てを水に流してしまいます。根本的な問題は解決しませんからまた同じことが起こるのです。

さらに日本人にはもう一つの特性があります。それは、再チャレンジの機会が日本にはあまりないということです。失敗を認めて、責任を取るとそれは烙印となり、一生ついてまわります。「責任を取ることは偉い」のではなく、「生贄」として社

会や組織から排除されることが多いため、排除されたくない=責任を取りたくない、誰が責任を取るのかを決定づけたくないという流れになるのです。

責任と共に生きる

ここで問題になるのは「責任」という言葉の意味です。責任とは、「立場上当然負わなければならない任務や義務」「自分のした事の結果について責めを負うこと。特に、失敗や損失による責めを負うこと。」(大辞林より)と定義されますが、私たちはより後者の意味を重視しているように感じます。後で責任を「取らされる」ことを心配するあまり、責任を「持つ」という自覚を失念しているのかもしれません。

先述の内閣の話で言えば、不祥事や不適切な発言、不可解な政策が続くと何でこんな愚かで無責任な内閣にしたのかと感じる人が大半である一方、見方を変えれば、国民は自分で選んで期待しておきながら、だめだったら無責任に批判しているとも言えます。自分たちの判断でそういう結果になったという責任の所在がどこにあるかを明確にしない私たちですが、それは結局「現代社会の生きづらさとして責任を取っている」ということになるのではないのでしょうか。

民主主義国家である以上、どんなに見ないふりをしていても等しく責任を取らなければならないのであれば、良くないと評価された結果をいかにリカバーするかを真剣に考えることです。人間ですから誰にでもミスはありますが、辞職だけすれば責任を取ることになるという理屈はやはりおか

しいのです。辞職し、人事、体制が変わったら同じことを起こさないようにするにはどうしたらよいのかを考え、行動することが結局は自分たちが取らなければならない責任の内容と重さを変えることにつながります。それを実行できるのが選挙であり、投票行為となります。

責任を持つとは、プロセスと結果をよく考えること。そのための方法として最適な手段を常に選択するということなのです。その際、集団とか肩書などのアイデンティティから離れ、いかに個人として意思決定してゆくかが重要ですが、主体的に行動した結果ミスを犯したならば、いかにそれを償い、同じ過ちを犯さない手立てを講じるかを考えていく、その責任は主権者である私たちにあるという意識改革を、そろそろ本気で受け入れなければならない時代にきているのでしょうか。

おかした結果の懲罰を引き受ける生贄は必要ありません。一人一人の思考と行動が、私たちの社会を創りあげているということ、その責任を皆がそれぞれの立場でとっていくことが大切です。

〈機関紙「日本再生」No.523の内容〉

2022/12/01 発行

無責任連鎖から責任の民主化へ—民主主義の復元力の波を起こそう●3-7面/コラム/一灯照隅●7-9面/総会報告●10-12面/インタビュー/3期目の習近平体制/川島真・東京大学大学院教授●13-17面/インタビュー/米中間選挙/三牧聖子・同志社大学准教授●17-20面/インタビュー/持続可能な熱海のまちづくり/齊藤栄・熱海市長

※ 機関紙「日本再生」のご購読をご希望の方は下記の連絡先までご連絡ください。

一緒に
考えてほしいこと

・あなたの日常で感じる不条理は、あなたの責任でもあると言われたら、どう感じますか？

【連絡先】「がんばろう、日本！国民協議会」埼玉読者会

住所:埼玉県越谷市大里 226-1 白川ひでつぐ事務所

担当:吉田理子

ganbarou.r.a.saitama@gmail.com

がんばろう、日本！HP 埼玉読者会 note



がんばろう、日本！国民協議会は、「国民主権の発展」「人づくり」「がんばる日本と日本人を回復する国民運動」「自由・民主」東アジアの社会的リーダー層のネットワーク構築および日米同盟の再定義を目的として活動している団体です。機関紙「日本再生」および各種資料の発行や、例会、定例講演会などの開催、また国民的課題、地域的課題への取り組みなどを行っています。